

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90216	民族工芸論研究	4単位 通年	1・2	講義	柳悦州(非)

### ■テーマ

変化する民族工芸

### ■授業概要

民族のアイデンティティを示すひとつに衣装があり、主に織物によってつくられてきた。それは、民族が持つ工芸技術によって従来織り出されてきた。現代まで、またグローバル化する現在において、民族工芸としての織物は様々に変化し続けている。この織物を中心として民族工芸の諸相について授業を行う。

### ■学習目標

1. 民族工芸は固定化されたものではなく、時代や環境にともない流動的に変化していく部分と、変化の遅い部分のあることを理解し説明できるようになる。
2. 産業革命を画期として、民族工芸がどのように変化したのか理解する。
3. 固定化した知識や、形骸化した概念として民族工芸をとらえず、移り変わる状況の中で工芸とは何か、民族工芸とは何か、理解し説明できるようになる。また各自の研究テーマに沿って発表、ディスカッションが行えるようになる。

### ■授業計画・方法

民族工芸としての織物について、下記のようなテーマについて授業を進める。

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1. 産業革命と織物、ヨーロッパの中世 | 16. 沖縄の織物、王朝時代  |
| 2. 中世の服飾            | 17. 沖縄の織物、王朝末期  |
| 3. ヨーロッパの産業革命前期     | 18. 沖縄の織物、明治時代  |
| 4. ヨーロッパの産業革命後期     | 19. 戦前の沖縄の織物    |
| 5. アメリカの産業革命        | 20. 戦後から復帰までの織物 |
| 6. ジャポニズム           | 21. 復帰後の織物      |
| 7. 江戸時代の日本の工芸       | 22. ペルシャの織物     |
| 8. 日本の近代化、江戸末期      | 23. シリアの織物      |
| 9. 日本の近代化、明治20年まで   | 24. ウイグル人の織物    |
| 10. 日本の近代化、明治20年以降  | 25. ラオス、ラオ族の織物  |
| 11. 和服織物とは          | 26. ラオス、少数民族の織物 |
| 12. 和服用手織物の素材の変化    | 27. タイの織物       |
| 13. 和服用手織物の拵技法の変化   | 28. アジアの織物と民族工芸 |
| 14. 服用手織物の染料の変化     | 29. アフリカプリント    |
| 15. 前期のまとめ          | 30. まとめ         |

※定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

この講義では、講義内容に関連するキーワードを示す。受講生は、そのキーワードについて予習を行い次回の講義に望むこと。キーワードをもとにディスカッションを行いながら理解を深めていく。また、定期試験は行わないが、4回のレポートの提出が求められる。

### ■成績評価の方法

【方法】 授業への参加状況(40%)、レポートの提出状況(30%)と、ディスカッション・コメントの内容(30%)

【基準】 民族工芸論について、論理的に記述できるか、また各自の研究テーマについて民族工芸論的な説明が行えるのか。芸術文化学専攻の学生には、より深い学術的な理解が求められる。

### ■教科書、参考文献等

『沖縄織物の研究』田中敏夫・玲子 京都書院

『世界の織機と織物』吉本忍編著・柳悦州作図 国立民族学博物館

『美の国と民藝』柳宗悦

『100年前の写真で見る世界の民族衣装』ナショナル ジオグラフィック編